

都道府県番号	18
都道府県名	福井県

()

・学校名及び規模

敦賀市立栗野小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	2	20	29
児童数	83	102	118	107	97	117	6	630	

・実践研究の概要

<p>・主題（テーマ） 確かな学力を保障するための指導法の探求 - 基礎基本を大切にした教育活動 -</p> <p>・テーマ設定の趣旨 本年度より新学習指導要領が実施されるに従い、完全学校5日制の下、個に応じた指導の充実と基礎・基本の定着を保障し、自律と自立に基づく「生きる力」を身につけるために、次の事項について研究実践していく。 (1) 児童一人一人へのきめ細やかな指導を充実させるために、特に低学年においては学習の基礎基本、生活の基礎基本を確立させるための手だてを講じる。 (2) 児童の理解・習熟の程度に応じた指導の充実を図るために、教科担任制や少人数指導およびTT指導の工夫と改善を重視する。 (3) 生きる力の向上をさらに充実させていくために、学校と家庭・地域との一体化はもちろんのこと、各種団体や人材の能力を生かした学習の推進と教育ボランティアとしての啓蒙と養成に努める。</p>

・実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

- ・当初の研究テーマをより具体化させるため、職員の話し合いを経て修正を行った。(5月)
- ・研究推進委員会を組織する際に、全校職員の共通理解を深めるため、各学年主任をメンバーに加えた。(5月)
- ・研究2年次を迎えるに当たり、研究組織を指導形態に対応しやすい形に修正検討を行った。(1月)
- ・次年度に各学年で実施できる研究内容を検討した。(1月)
- ・今年度の研究内容を確認するため、3学期に講師を招聘し、授業研究会を実施した。(2月)

() 実践研究の内容

6年 算数科 (習熟度別指導)

理解の程度に差が生じがちな6年生の算数科においては、その理解度に応じた指導が

有効であるとの考えから習熟度別指導を導入した。

しかし、その実施に当たっては、児童の気持ちを大切にすること及び保護者の理解と協力を得ることが何より大切であると考え、次のような手順を踏みながら取り組むこととした。

(1) 保護者への説明

4月のPTA総会后、学年懇談会を設定し、少人数指導（習熟度別）の説明の時間を設定した。以下のことを説明し、理解と協力を求めた。

個に応じたきめ細やかな指導を行い、基礎・基本の確実な定着をねらった学習形態であること。

子どもたちの希望を優先し、クラス分けを行うこと。

『じっくりコース』『チャレンジコース』を設定すること。

どちらのコースも教科書の内容を確実に行うが、教材や場面によっては復習の時間をとったり、発展問題に取り組む時間を設けたりしていくこと。

児童・保護者の意見を聞きながら進めていきたいと考えていること。

(2) 児童によるコースの選択

児童が自分にあったコースを選択できるように、次のような手だてを行った。

コース設定の説明

レディネステストの実施

その単元における学習の概要説明

コースの選択……既習学習の定着度と学習内容を参考にして、児童自身が各自のコースを選択する。

(3) コースの特徴

どちらのコースを選んだ場合も教科書の内容は確実に指導する。

『じっくりコース』

学習の場面を理解しやすくするために、既習学習に戻って考えたり、日常的な場面を想起したり、具体物を用いたりしてイメージをしやすくするなどの手だてをとる。問題解決の場面においても、用意されたヒントをもとに自力で解決したり、指導者とともに考えながら解決したりするなど、個に応じた指導に心がける。

『チャレンジコース』

単に計算がはやくできるだけでなく、計算の仕組みについて考えたり、意見を出し合いながらやり方を自分たちで見つけたりする活動にも主眼を置く。また、学習内容にふさわしい問題作りや発展問題に取り組む活動を通して、より深く内容を理解できるよう配慮する。

(4) コース選択の実際

コースを児童に選択させてみると、『じっくりコース』を選択する児童が多い。慣れないことなので慎重な子どもたちは難しいコースに進もうとしなかったり、友だちとの関係が正しいコース選択の妨げになっていることも少なくない。そういった場合には、担任との話し合いでコースを変更するようにしている。

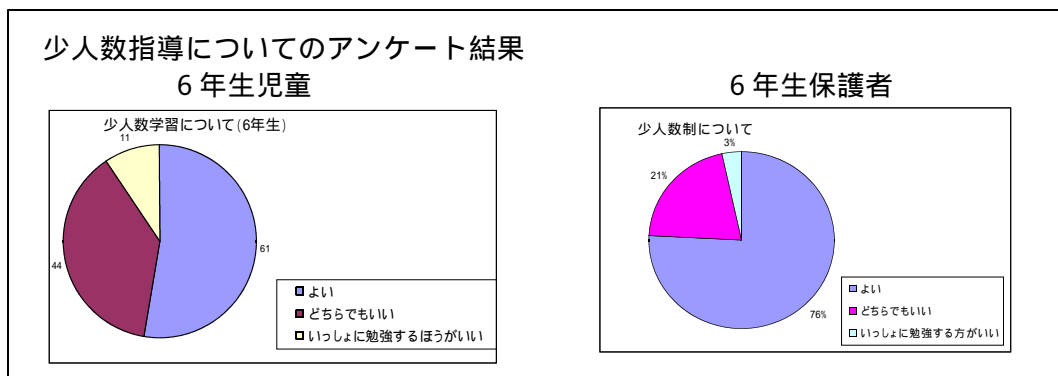
単元の学習を終えた時点で自分の選んだコースを振り返り、次のコース選択の参考になるようにしている。

それぞれのコースの担当は、学期により交代した。これは、担任や少人数指導教員がより多くの児童に関わることにより、児童の個性の育成に資することができると考えたためである。また、それぞれのコースの様子については常に情報を交換し、次の学習に生かせるよう配慮した。

() 成果と課題

習熟度別のコース編成を行ったことで、問題解決に至るまでの手順に変化をもたせることができるようになった。例えば「チャレンジコース」では、主に自力解決に主眼をおき、その解決方法についての発表や話し合いに時間をかけることができ、単に問題が解けるだけの学習ではなく、自分の言葉で説明することが少しずつできるようになってきた。また、「じっくりコース」では、課題の意味を理解したり、支援を得て問題解決にあたりする時間を多くとることで、今までは多人数の中で発表にしり込みしがちだった児童も、自分の力で考えた自信からか、発表の意欲をもてるようになってきた。

児童は2つのコースに分かれることにも順調に対応し、少ない人数の中で生き生きと学習する姿が見られた。保護者には、授業参観やオープンスクールにおいて積極的に授業を公開し、子供たちの様子をできるだけ見ていただけるように配慮した。保護者からも「満点を取って自信がもてるようになったみたいだ。」「自分のペースで落ち着いて考えることができるようになってよかった。」などの声を聞くことができ、理解を得ている手応えを感じることができた。



しかし、本年度の取り組みでは、全時間を2コースに分けて実施してきた。そのため、学習の内容を十分知ったうえでコースを選択することはできず、それまでの算数の学習に対するイメージが優先して選択する場合も多かった。また、もう一方のコースとの交流の時間をとることはなかったため、多様な考えにふれる機会も減ってしまった。

今後は、児童一人一人が適切なコースを選択でき、効果的に学習が進められるよう、1単元の学習の中でも、全体学習を取り入れ、単元はじめの指導や情報交換を行うなどの機会を設けたり、学習を振り返る時間を取り入れたりするなどの改善をしていきたいと考えている。

また、「チャレンジコース」においては、発展学習を取り入れ、学習をより確実なものにしたいと考えてきた。しかし、十分な打ち合わせや準備の時間がとれずに、計画的に学習を進めることができなかったことが大きな反省点として残っている。

() 成果の普及方策

- 平成14年11月13日 授業公開
少人数指導（習熟度別，均等割），TT，教科担任制，外部講師を招いての授業等
- 平成14年11月28日 嶺南地区小中学校教育充実研修会における実践発表
- 平成15年 1月23日 福井県学力向上推進協議会（嶺南地区）における実践発表およびパネルディスカッションにパネラー（保護者代表および研究主任）として参加
- 嶺南地区全校の現職教育（2月実施）に関する資料（公開授業のビデオおよび実践報告書）を提供